

平成26年度 沖縄海区漁業調整委員会開催状況

	開催日時・場所	議 題	内 容
第1回	平成26年4月9日 14時～16時 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認予定数について	浮魚礁の敷設承認基数に関する方針及び今年度の承認予定数の配分について審議し、原案どおり決定した。 また、平成25年度中に発生した浮魚礁の管理に係る不適切事例について報告を行った。
		(議案2) 浮魚礁の敷設承認申請について	再承認が1漁協(8基)、1市(4基)より申請あり。全て承認。
		(議案3) ウミガメの採捕承認申請について	漁業及び試験研究用のウミガメ採捕申請が各々1件あり、承認する種、頭数及び試験研究に対する制限条件について審議し、原案どおり承認した。
		(協議1) 建干網及び固定式刺網に係る漁業許可申請の取扱いについて	水産課に提出された網漁業の許可申請に漁協からの同意書がない件について、次回委員会で審議を行いたい旨説明を行った。
		(報告1) 平成27年度漁業権途中免許について	平成27年度途中免許の予定数とスケジュールについて説明を行った。
		(その他) マチ類資源の現状と資源管理の取組について	水産海洋技術センターの上原氏から、PPTで説明があった。委員からは、抜本的な資源管理は難しいのではないかと質問があったが、アカマチで生計を立てている漁師のことを考えると、長期間の禁漁を強いることはできないとの回答があった。
第2回	平成26年5月9日 14時～16時40分 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	新規が1基(久米島漁協)、再承認が漁協から16基(今帰仁、那覇市沿岸、港川、沖縄市、八重山)、県から70基申請。原案通り承認。
		(議案2) ウミガメの採捕承認申請について	漁業者から1件、試験研究機関から1件採捕申請。ウミガメの採捕数については第3者的な担保がないことから、今後検討することとなる。原案通り承認。
		(協議1) ウミガメの採捕に係る委員会指示の発動にむけて	新たな指示の発動について協議した。漁業者や研究者からは、ウミガメが増えているとの所感が多く寄せられているが、これを客観的に示すデータがなく、機会があれば研究者に委員会の場で説明してもらいたいことを提案した。
		(報告1) 建干網及び固定式刺網に係る漁業許可申請の取扱いについて	前回協議からの経過報告を行った。未だ結論が出ないため、今後動きがあり次第委員会で報告することとなる。
		(報告2) 沖縄海区における漁業取締	漁業取締船「はやて」の横田船長から取締概要と25年度の特筆事項について説明があった。
第3回	平成26年6月13日 14時～15時15分 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	再承認が漁協から12基、市町村から2基、合計14基申請。糸満漁協の1基は名称・番号がかすれて読み取れないため、当基を除いて原案通り承認。
		(議案2) ウミガメの採捕承認申請について	試験研究機関から1件採捕申請。原案通り承認。 委員より、これまで試験研究で承認してきたものについては一般に還元してもらいたいとの意見がでた。
		(議案3) ウミガメの採捕に係る委員会指示の発動について	指示の期間を1年から3年に変更すること、年2回だった報告を採捕期間終了後1回にすることで原案通り承認。
		(議案4) 南北大東海域における操業承認について	試験研究機関から1件申請。原案通り承認。
		(議案5) 奄美大島海区からの浮魚礁周辺での集魚灯操業自粛依頼について	奄美大島海区からの浮魚礁周辺での集魚灯操業自粛依頼について審議。 委員からは、依頼をするのであれば浮魚礁の位置を公開すべきでないかという意見や、センターパヤオは原則宮崎、鹿児島、沖縄の利用は自由だが、センターパヤオもこの自粛対象となるのか等、質問が多く出た。 回答を用意し、次回再度審議することとなる。
		(報告1) 平成26年度全国海区漁業調整委員会連合会の中央要望事項について	週明け6月16日に山川会長が中央省庁への要望に参加することが報告された。 委員からは、官邸への要望を行うべきとの意見が出たが、全漁調連が要望を行うのは農林水産省、国土交通省、防衛省であり官邸は含まれないと回答。

第4回	平成26年7月11日 14時～16時00分 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	本部町から、一括交付金を利用して新たに2基敷設するため、追加枠の要望あり。原案通り、承認。
	(議案2) 浮魚礁の敷設承認申請について	再承認が漁協から45基、市町村から17基、合計62基申請。原案通り承認。今回の審議でなお未承認パヤオをもつ団体、名護漁協、伊江村、糸満漁協、知念漁協には指導文書を送付することを決定。 委員からの要望で、次回から審査資料に協議位置を加えることとなる。	
	(議案3) ウミガメの採捕承認申請について	漁業者から15件、試験研究機関から1件採捕申請。原案通り承認。 黒島のウミガメ研究所に、ウミガメ類の個体動態について海区漁業調整委員会の場で発表を求めることとなる。	
	(議案4) 奄美大島海区からの浮魚礁周辺での集魚灯操業自粛依頼について	前回の海区で保留となっていたため再度審議を行うが、センターパヤオでの集魚灯禁止については認められないとのことで否決。今後、時間をかけて整理することとなる。 委員からは、沖縄は奄美海区のセンターパヤオを利用しているので、宮崎、鹿児島、沖縄が共同利用できる当該パヤオの利用の仕方の一方向的に制限を加えることはおかしい、そうであれば三県協議会を開催すべきとの意見があった。	
	(協議1) 平成26年度全国海区漁業調整委員会連合会九州ブロック会議の要望提案等について	昨年度沖縄海区から提案した、日台、日中の2つを微修正して継続要望し、新規として米艦艇によるものと思われるマグロはえ縄切断についてを要望することについて協議。文言の使い方に多く意見が出たため、次回委員会までに委員と調整のうえ、臨むこととなる。	
	(報告1) 沖縄沿岸の水産資源の現状について	水産海洋技術センター太田研究員から、沖縄近海の水産資源状況等についてPPTで説明あり。	
第5回	平成26年8月12日 10時～11時30分 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	再承認が漁協から2基申請。原案通り承認。 7月海区までに承認を受けられなかった名護漁協、知念漁協から遅延理由書の提出があった。
	(議案2) ウミガメの採捕承認申請について	漁業者から3件、試験研究機関から2件採捕申請。原案通り承認。 委員からは、いであの申請内容が、なぜ事業ではなく試験研究なのか質問が出たが、まだ孵化や養殖の技術が安定しておらず、事業の前段階であるため試験研究として扱っていると説明。	
	(議案3) 平成26年度全国海区漁業調整委員会連合会九州ブロック会議の要望提案等について	11月に長崎県で開催される九州ブロック会議で、日台、日中を継続、漁船の安全操業確保を新規で提案要望することとなる。 委員からは、継続とは言え、最近海区で日台、日中の話がなかったので、継続的に話を取り上げるべきとの意見が出た。	
	(協議1) ソデイカの採捕に係る委員会指示発動にむけて	9月30日で指示の期間が終了するため、新たな指示の発動に向けて協議。資源管理のためソデイカ漁業の届出制導入を見据えて、指示を1年とすることになる。	
	(その他) マチ類の資源管理について	水産海洋技術センター上原研究員から、マチ類資源管理の状況と将来的な資源管理の方法についての助言等がPPTで説明あり。	
第6回	平成26年9月12日 14時～14時40分 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	新規が県から15基、漁協から3基、再敷設が漁協から1基、再承認が漁協から1基申請。原案通り承認。 7月海区までに承認を受けられなかった糸満漁協、伊江村から遅延理由書の提出があった。
	(議案2) ウミガメの採捕承認申請について	漁業者から4件採捕申請。原案通り承認。 なお、販路の決まっていない漁業者については、ウミガメを採捕する前に販路を定めて事務局に報告するよう指導することとなった。	
	(議案3) ソデイカの採捕に係る委員会指示発動について	9月30日で指示の期間が終了するため、新たな指示の発動について審議。内容の変更は伴わず、指示の期間を1年として発動を決議。	
	(その他) 沖縄県におけるウミガメ類の現状	NPO法人日本ウミガメ協議会附属黒島研究所の亀田氏から、小笠原との比較も踏まえながら県内のウミガメ類の状況についてPPTで説明あり。	

第7回	平成26年10月10日 14時～16時00分 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	再敷設が漁協から3基申請。原案通り承認。 委員から、浮魚礁を敷設する際、海底ケーブルの位置を避けるために各所と調整が必要ではないかと意見あり。今後の方針を検討することとなる。
		(議案2) ウミガメの採捕承認申請について	漁業者から2件採捕申請。原案通り承認。 委員からは、沖縄県においてウミガメは水産資源として豊富なようなので、調査をしたうえで利用について検討すべきではないかと意見あり。
		(議案3) ソデイカはえ縄漁業の承認申請について	1件申請あり、原案通り承認
		(報告1) 平成26年度全国海区漁業調整委員会連合会の中央要望に係る回答結果について	回答結果の中から、沖縄海区の要望に対する回答を説明。 委員からは、漁業者が監視を行っているせいか、台湾船が非常に少なくなったと感じるとの発言があった。
		(その他) アカジン、マクブの資源状況及び管理について	水産海洋技術センター太田主任研究員から、北部における体長制限の取組等についてPPTで説明あり。
第8回	平成26年11月11日 14時～16時40分 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	新規が漁協から4基申請。原案通り承認。 委員から、流失に対する傾向と対策について質問が出た。事務局からは、表層型は台風に弱く、単純に流失対策を重視するなら中層型がよいと回答。
		(報告1) アカジン、マクブの捕獲制限について	北部6漁協連名で、海区漁業調整委員会会長あて2魚種の採捕制限を目的とする委員会指示発動要請文が提出された。 遊漁者も含めるのか、北部だけでなく全県を見据えるのか。今後委員会指示発動に向けて次回、事務局が骨子を提出することとなった。
		(報告2) 西表石垣国立公園の区域の変更について	現在環境省が検討している西表石垣国立公園の区域の変更について、自然保護課を通じて水産課に意見照会があったことを報告。委員会の場では正式な変更内容が示されなかったため、内容がオープンになってから本格的な意見を出すこととなった。
第9回	平成26年12月12日 15時～17時 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	新規が12基(本部町2基、知念漁協1基、県9基)申請。原案通り承認。 委員から、レジャー用浮魚礁敷設による漁業者への影響及び遊漁手数料の流れについて質問あり。レジャー用浮魚礁の導入は、町全体への経済的波及効果を得ることが目的であること、手数料は漁協を窓口として観光協会等3団体で分配する仕組みになっていることを説明した。
		(議案2) ウミガメの採捕承認申請について	漁業者から2件採捕申請。原案通り承認。 委員からは、ウミガメの流通について最後まで把握すべきではないかとの意見が出た。事務局からは、あくまでも委員会指示の目的に沿って承認を検討し、管理も同様であり、今後適切な対応を検討していきたいと回答。
		(協議1) 北部地区における魚類資源管理に係る委員会指示の発動について	前回の報告後に行った、北部6漁協との意見交換会の状況を報告。今後調査等を取りまとめ、今年度末を目処に新たな委員会指示発動を検討するという方針について委員から意見を伺った。 釣りや刺網は大きさを選べないので指示から外すべき、遊漁者も指示対象にすべき、将来全県的に広げることを見込むならば、その際は体長制限を緩めることも考慮すべき等、多くの意見が出た。 その他、検討課題も多く、次回委員会でも継続審議となった。
		(その他) 委員報酬等の支給基準について	人事課通知のみでは判断できかねる業務内容等については、随時人事課と調整を行ったうえで報酬を支給してきたところであるが、報酬が支払われるべき委員活動を明確にし、支払業務の円滑化を図るため、事務局作成案を提示した。 しかし、委員からは人事課の委員会軽視ともとれる対応や現在の報酬額について未だ受け入れられないとの意見が出て説明ならなかった。 委員からの要望により、次回委員会において人事課に出席を求めるとを検討することとなった。

第10回	平成27年1月21日 13時30分～15時 ホテルチュウ琉球 7階会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	新規が2基(久米島町2基)あり。原案通り承認。
		(議案2) 浮魚礁承認予定数に関する方針(案)及び浮魚礁自主調整協議会の開催について	平成27年度の浮魚礁承認予定数を決定するにあたっての案とスケジュールを示した。また、各敷設団体からの要望数と、要望数調整を行う協議会の開催について報告。原案通り承認。
		(協議1) 浮魚礁に係る委員会指示の発動にむけて	平成27年度に新たに発動される浮魚礁に係る委員会指示について、現在の委員会指示からの内容の変更点(3つの運用の規定化、2つの規定の削除)について説明。今後、各ブロック自主調整協議会で意見を募り、2月の委員会で再度協議し、3月に発動を決議するスケジュールの確認を行った。
		(協議2) 北部地区における魚類資源管理に係る委員会指示の発動について	前回、委員から出た質問について、再度北部6漁協に問い合わせた結果の報告を行い、それを受けての事務局案を提示。委員からは、採捕の際に目安となる計測器の携帯や、漁業者及び遊漁者を含めた周知用ポスターの作成等の案があがった。
第11回	平成27年2月13日 14時～16時 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	新規が2基(伊良部漁協)、再敷設が3基(沖縄市漁協2基、港川漁協1基)あり。原案通り承認。 委員からは、表中層型浮魚礁の表層部のみが流失した場合の流失届の扱いについて質問がでた。表中層型の表層部は非常に簡素な作りのため、届出を受理していないことを説明した。
		(協議1) 浮魚礁に係る委員会指示の発動にむけて	前回委員会において出た意見とブロック協議会の意見を踏まえ、再度内容を検討した。中層型へのレーザー反射器取り付けを今後の課題とし、今回の内容を基に次回決議を行うこととなった。
		(協議2) 北部地区における魚類資源管理に係る委員会指示の発動について	これまで協議を重ねてきた北部資源管理について、指示(案)を示して協議。方言名の記載について意見が出たが、原案どおり次回発動予定となった
		(協議3) マチ類資源の保護培養に関する委員会指示の発動について	マチ類漁業者と調整を重ねた結果、水納北保護区は解除し、委員会指示を3年で発動する事務局案を提出したが、委員は水納北の解除には反対。宮古、八重山各地で再度委員も交えて調整することとなった。
第12回	平成27年3月13日 14時～14時50分 沖縄県庁6階 第2特別会議室	(議案1) 浮魚礁の敷設承認申請について	新規が3基(県)、再敷設が1基(知念漁協)あり。原案通り承認。 委員からの発言なし。
		(議案2) ウミガメの採捕承認申請について	漁業者から2件採捕申請。原案通り承認。 委員からの発言なし。
		(議案3) 浮魚礁に係る委員会指示の発動について	4月1日発動予定の委員会指示について審議。原案通り承認。 委員からの発言なし。
		(議案4) マチ類資源の保護培養に関する委員会指示の発動について	前回委員会において、保護区の解除は委員会として反対であったため、委員会後に指示内容継続で発動する旨の説明を各署で行ってきたことを説明。原案通り承認。 水産海洋技術センターの上原研究員より、マチ類の産卵期に関する説明があった。
		(議案5) 北部地区における魚類資源管理に係る委員会指示の発動について	11月から協議を重ねてきた、沖縄北部海域のスジアラ及びシロクラベラの委員会指示発動について審議。原案通り承認。 委員からの発言なし。